

平成21年度森林環境基金事業実績見込みについて

I 森林環境の適正な保全

1 森林整備事業

事業概要

手入れが行われず荒廃が懸念される公益的機能の高い水源地域の森林について、県営事業及び補助事業により間伐等の森林整備を実施した。

- ・森林整備事業（県営） 2,248ha 事業費：740,053千円
- ・森林整備促進事業（補助） 1,300ha 補助額：237,250千円
（うち基金分：785,036千円、国庫分：192,267千円）
 - ①市町村事業（市町村有林等）： 100ha 18,250千円
 - ②その他（市町村有林等以外）：1,200ha 219,000千円

○H21実績見込み

- ・県営事業 2,248ha（事業費：740,053千円）
- ・補助事業 1,300ha（補助額：237,250千円）

○実績累計見込み（H18～H21）

- ・県営事業 6,825ha（事業費：2,174,006千円）
- ・補助事業 4,572ha（補助額：862,611千円）

2 森林環境適正管理事業

事業概要

地図を活用した森林情報を広く県民等に発信するとともに、森林GISシステムの運用及び保守を行った。

- ・森林情報（GIS）活用推進事業 事業費：7,518千円

○H21実績見込み

- ・森林GIS活用推進事業（事業費：7,518千円）

森林資源情報システム及び施業履歴管理システム、森林情報発信システムの運用及び保守業務を行った。（4月13日に森林情報発信システム「ふくしま森まっぷ」の運用開始式を実施し、一般県民への森林情報の提供を開始した。）

II 森林資源の利用促進

3 間伐材搬出支援事業

事業概要

間伐材の利用促進を図るため、間伐材の搬出に必要な作業路の整備及び原木市場等への間伐材の運搬を支援した。

- ・間伐材運搬経費支援事業 500円/m³ 25,000m³ 補助額：12,500千円
- ・林内作業路整備支援事業 500円/m、1,000円/m 44,988m 補助額：22,500千円

○H21実績見込み

- ・間伐材運搬経費支援事業 25,000m³ 補助額：12,500千円
- ・林内作業路整備支援事業 44,988m 補助額：22,500千円

○実績累計見込み（H18～21）

- ・間伐材運搬経費支援事業 91,777m³ 補助額：75,133千円
- ・林内作業路整備支援事業 178,988m 補助額：89,500千円

4 間伐材利用促進事業

事業概要

間伐材の利用促進を図るため、県有施設工事への間伐材活用、県管理施設等に間伐材を主体とする木材製品や資材の利用展示を行う安らぎの場の創出、間伐材や製材端材等の木質バイオマスの循環利用を推進するペレットストーブの導入支援を実施した。

- ・ 県有施設の間伐材利活用推進事業 事業費：1,920千円
- ・ 「ほっと」スペース創出事業 事業費：3,185千円
- ・ ペレットストーブ利用推進事業 事業費：2,793千円

○H21実績見込み

- ・ 県有施設の間伐材利活用推進事業（事業費：1,920千円）
福島県立博物館（会津若松市）に案内板2基を設置した。（1月31日竣工）
- ・ 「ほっと」スペース創出事業（事業費：3,185千円）
 - ① 県庁西庁舎2階県民ホール内喫茶コーナーに外装パネルを設置した。
 - ② 大笹生養護学校内渡り廊下屋外仕切りに木製腰板を設置した。
 - ③ 郡山合同庁舎に多目的棚を設置した。
 - ④ 福島県文化財センター白河館（まほろん）に木製ベンチを設置した。
 - ⑤ 福島県立博物館に木製展示台を設置した。
 - ⑥ 県立南会津病院にパンフレットラック、看板等を設置した。
 - ⑦ 県立南会津高等学校に木製看板を設置した。
 - ⑧ 会津乗合自動車(株)山口営業所（バス停）にベンチを設置した。
 - ⑨ 県立只見高等学校に新聞閲覧棚を設置した。
 - ⑩ 県立新地高等学校に書架、案内板を設置した。
 - ⑪ 大柿ダムに木製テーブル、ベンチを設置した。
 - ⑫ ふくしま海洋科学館アクアマリンふくしまに木製ベンチを設置した。
- ・ ペレットストーブ利用推進事業（事業費：2,793千円）
民間施設等への導入支援として、51台へ補助。（補助額：5万円/台）

○実績累計見込み（H18～21）

- ・ 県有施設の間伐材利活用推進事業 4施設
- ・ 間伐材利用拡大モデル展示事業 2タイプ（常設展示：1ヶ所、移動用：1式）
- ・ 「ほっと」スペース創出事業 県有施設等31施設
- ・ ペレットストーブ利用推進事業 173台（県有施設25台、民間施設等148台）

5 省資源型生産システム推進事業

事業概要

間伐材の利用推進を図るため、ハウス等における加温施設の燃料に木質ペレットを利用した。

事業費：668千円

○H21実績見込み

- ・ 木質ペレット暖房装置導入による燃油使用量軽減技術

簡易なハウスを利用した菌床シイタケ栽培では、9月から3月にかけて収穫を行い、シイタケ子実体の発生温度以下に気温が低下する時期には、燃油等による暖房が必要となる。九州や四国等の産地と比較し、北に位置する本県は燃油の使用量が多く、気温の低い阿武隈山地等では特に使用量が多くなる。

このため、モデル的に木質ペレット暖房を導入し、シイタケの形質や収量に与える影響等について検討し、その特質を公表することで、燃油使用量を削減した省資源型加温対策の一手法としての木質ペレット暖房装置の効果をシイタケ生産者に認識してもらう予定。

- ① 対象作物：生シイタケ
- ② 事業実施主体：財団法人福島県きのこ振興センター

Ⅲ 県民参画の推進

6 森林環境学習推進事業

事業概要

県民を対象として、各流域の特色を活かした森林環境ゼミナールを開催するとともに、森林環境学習に必要なフィールドの整備を行い、森林環境学習の推進を図った。

- ・森林環境ゼミナール開催事業 事業費：1,806千円
- ・森林環境学習の森整備事業 事業費：663千円

○H21実績見込み

- ・森林環境ゼミナール開催事業（事業費：1,806千円）

流域毎に各事務所（県南、南会津、相双）が主体となり、実施した。

奥久慈流域	10月10日（埴町）	92名（事業費：430,500円）
阿武隈川流域	7月25日（白河市、西郷村）	114名（事業費：472,500円）
会津流域	11月7日（南会津町）	101名（事業費：451,500円）
磐城流域	12月19日（富岡町）	62名（事業費：451,500円）

計 369名

- ・森林環境学習の森整備事業（事業費：663千円）

昭和の森（会津）

○実績累計見込み（H18～21）

- ・森林環境ゼミナール 延べ17回開催、延べ参加者1,836名
- ・森林環境学習の森 8ヶ所（うち1箇所は2ヶ年で施工）

7 森林ボランティア総合対策事業

事業概要

森林づくり活動の広報、森林ボランティアに関する情報収集・提供、相談窓口業務等を行う森林ボランティアサポートセンターを設置するとともに、森林づくりを先導する事業やボランティア団体の活動を支援するほか、企業の森林づくりへの参加推進に努めた。

- ・森林ボランティアサポートセンター設置事業 事業費：5,003千円
- ・森林ボランティア団体活動支援事業 事業費：2,514千円
- ・環境貢献企業の森林保全参加推進事業 事業費：128千円

○H21実績見込み

- ・森林ボランティアサポートセンター設置事業（事業費：5,003千円）

森林ボランティアサポートセンターを引き続き「県民の森」内に設置し、ホームページ及び広報誌（森ボラ新聞4回発行）によるイベントなどの情報提供、相談業務、森林整備機材の貸出等を行う。（アクセス件数見込み：37,104件、平均：3,092件/月）

- ・森林ボランティア団体活動支援事業（事業費：2,514千円）

19団体に対して2,514千円を補助した。

※森林づくり推進連絡会議を3回（8月、11月、2月）開催するとともに、森林づくり活動発表交流会を11月13、14日に白河市で開催し、延べ72名が参加した。

（森林ボランティア活動活性化事業で行っていた一部の事業を平成21年度から当該事業で実施。）

- ・環境貢献企業の森林保全参加推進事業（事業費：128千円）

東邦銀行、須賀川市、県及び東邦銀行、喜多方市、県の3者によるあわせて2件の森林づくりに関する協定書を締結した。また企業からの森林づくり活動に対する相談等に対応した。さらに（社）国土緑化推進機構主催の「企業の森づくりフェア2010」（1月27日、東京都）へ出展し、福島県における企業の森林づくりを県外企業へPRした。

■相談のあった主な企業等

（株）東邦銀行、（社）福島県トラック協会、福島県建設労働組合連合会、農林中央金庫福島支店

○実績累計見込み (H18～21)

- ・森林づくり活動発表交流会 4回開催、延べ参加者483名
- ・森林ボランティア団体活動支援 延べ78団体 (79件)

8 もりの案内人等指導者養成事業

事業概要

もりの案内人を養成するため、審査委員会や養成講座を開催するとともに、森林環境やその指導方法に関する研修会及び森林整備ボランティア団体のリーダーを養成した。

- ・もりの案内人第2期養成事業 事業費：1,966千円
- ・森林づくり指導者養成事業 事業費：900千円
- 森林環境学習指導者育成 (185千円)
- 森林ボランティアリーダー養成 (715千円)

○H21 実績見込み

- ・もりの案内人第2期養成事業 (事業費：1,966千円)
もりの案内人35名に認定証を交付した。
- ・森林づくり指導者育成事業 (事業費：900千円)
 - ①森林環境学習指導者育成 (事業費：185千円)
6月27～28日 もりの案内人等を対象に「県民の森」で実施した。(参加者18名)
 - ②森林ボランティアリーダー育成 (事業費：715千円)
森林ボランティアリーダー育成講座研修を8名(受講者11名)が修了した。
※森林ボランティアリーダー育成講座受講者のうち、5日間以上の森林整備の指導実績を積んだ者を福島県グリーンフォレスターに認定した。(認定者7名)

○実績累計見込み

- ・福島県もりの案内人 H9からの認定者403名
- ・森林環境学習指導者育成 参加者111名
- ・森林ボランティアリーダー育成講座研修 修了者62名
- ・福島県グリーンフォレスター H15からの認定者91名

9 森林環境教育指導者養成セミナー事業

事業概要

地球温暖化対策の一つである二酸化炭素吸収源としての森林の整備や保全の重要性を体験活動を通じて指導者自らが学び、学校教育や社会教育の場で実践することにより、将来を担う子供達の意識と行動力の高揚を図ることを目的として、小・中学校教員及び公民館指導員等を対象に、森林環境教育の指導者を養成した。

事業費：517千円

○H21 実績見込み

- 県内3方部で、森林環境教育指導者養成講座を開催した。(参加者82名)
- ・中通り会場：「ふくしま県民の森フォレストパークあだたら」
7月30～31日 「昆虫を通して『森林を観る、自然との共生を考える』」(参加者35名)
 - ・会津会場：「国立磐梯青少年交流の家」
7月26～27日 「樹木を体感して『森林環境学習』の企画をマスターしよう！」(参加者24名)
 - ・浜通り会場：「いわき市林業研修センター湯ノ岳山荘」
8月10～11日 「森・川・海のつながりについて学ぼう」(参加者23名)
- 講座で作成したプログラム等を活用した各教育現場での森林環境教育の実践状況が県に報告されている。(提出件数:5件)
- この報告内容をホームページに掲載し、指導者向けに広く紹介した。

○実績累計見込み (H20～21)

- ・森林環境教育指導者養成講座 延べ参加者167名

10 県立学校における地域連携森林環境学習推進事業

事業概要

県立学校において、森林を守り育てる意識の醸成等を図るため、地域の人材を活かしながら、体験的な森林環境学習を実施した。

事業費：1,581千円

○H21実績見込み

①南会津高校（事業費：78千円）

森林管理署員を講師に招き、1年生が南会津町館岩地区の公有林で森林の間伐や測量などを体験し、林業への理解を深めた。

②田島高校（事業費：215千円）

環境科学コースを選択した2、3年生が、間伐材からの木工製品製作や、間伐材を活用した炭焼きなどを学んだ。秋ごろに地域住民を対象に木工クラフト製作体験教室を開き、生徒が講師として学習成果を住民と共有した。

③磐城農業高校（事業費：950千円）

園芸科などの生徒が地域住民を講師にチェーンソーや草刈り機の講習を受けた。

さらに間伐材を砕いてチップ化し、果樹園等の敷物材料とするなど、木材の有効活用策を学んだ。

④相馬農業高校飯館校（事業費：171千円）

地域住民を講師に間伐材を利用したシイタケの植菌体験や山野草園づくりなどを行い、農林業へ理解を深めた。

⑤盲学校（事業費：26千円）

生徒がスキーで冬の森林を歩き、森林保全の意識を高めた。

⑥あぶくま養護学校（事業費：141千円）

高等部の3年生が地域に伝わる海老根和紙の製作方法を学び、地元の伝統行事にあんどんを出品した。

・実施数 6校

※参考（H18～20「県立学校における森林環境学習推進事業」）

・実施数 5校（延べ9校）

IV 森林文化の復興

11 ふくしまの森林文化復興事業

事業概要

ふくしまの森林文化を見直し、現代生活に活かしていくため、地域に根ざした森林文化を掘り起こし、県民に分かりやすい形で公表するためのデータベースの作成を行った。

事業費：5,174千円

1 事業実績

○H21実績見込み（事業費：5,174千円）

- ・調査業務を特定非営利活動法人超学際的研究機構に委託した。
- ・検討委員会を開催（2回）し、有識者の指導のもと5館連携企画展の基本構想構築を進めた。また、専門部会を開催（4回）し、5館連携企画展の実施に向けた企画内容の検討や事前調査を実施した。
- ・森林文化事例のデータベース構築を進めるとともに、森林文化フォーラムの開催（10月31日）により森林文化を県民に広く発信した。
- ・ふくしま森林文化企画展にむけた実行委員会を設立しH22の開催に向けて準備を行った。

V 森林環境の調査研究

12 森林整備効果実証事業

事業概要

森林整備による効果を実証するため、森林整備事業のモデル地域において、水環境の変化等を調査研究した。

事業費：86千円

○H21実績見込み（事業費：86千円）

- ・白河市の調査地の間伐を実施した。
- ・前年度に引き続き、調査地2ヶ所（二本松市1ヶ所、白河市1ヶ所）での量水試験等観測を実施した。（二本松市は森林計画課、白河市は林業研究センター職員で継続的に実施。）
- ・報告書を作成のうえ、県民に分かり易い形で公表する予定。

13 木質バイオマス等利用による園芸施設の開発事業

事業概要

木質バイオマス燃料（木質ペレット）及び太陽光発電等自然エネルギーを活用した化石燃料を極力用いない省エネルギー型園芸施設を開発し、その実用性を検証した。

事業費：1,950千円

○H21実績見込み（事業費：1,950千円）

- ・イチゴ栽培ハウスにおいて、「太陽光発電・蓄電装置」と木質バイオマスボイラーや各種省エネルギー技術を統合した「ふくしま型農業生産システム」を試作し、制御・動作試験を実施した。
- ・「クリーン・エネルギー・ネットワークLLP」と連携し、試作した「ふくしま型農業生産システム」の改良やエネルギー利用効率の調査分析を実施した。

VI 森林環境基金の運営

14 森林環境基金運営事業

事業概要

森林環境税に対する県民の理解を深めるため、パンフレットの配布やホームページ等による広報、交流会の開催等を行った。

また、現行制度が平成22年度に満了することから、制度の認知度や平成23年度以降の在り方に対する幅広い県民の意見を集約した。

- ・森林環境税関連施策PR事業 事業費：1,407千円
- ・森林の未来を考える懇談会運営事業 事業費：621千円
- ・（新）森林環境基金事業に対する県民の声を聞く事業 事業費：1,000千円

○H21実績見込み（事業費：3,028千円）

- ・森林環境税関連施策PR事業（事業費：1,407千円）
 - ①チラシ（税と用途）、グッズ（ふくしま県民憲章入り鉛筆・絆創膏入りチラシ）、ホームページによりPRした。
 - ②県政広報ラジオ番組4回（イブニングブレイク等）、月刊誌3回（林業福島等）等により、PRした。
 - ③林業祭や地産地消フェアにおいて、県内の名水を試飲してもらい、森林環境基金事業をPRした。
 - ④水源地域の森林整備交流会（7方部）を開催し、上下流の県民の交流の中で森林整備の重要性をPRした。（参加者369名、平均：53名/方部）
県北：15名（11/26）、県中：32名（9/5）、県南：194名（8/5）、会津：43名（9/12）、南会津：33名（11/1）、相双：29名（8/1）、いわき：23名（11/28）
 - ⑤「ブナ林の恵み」をテーマに森林文化フォーラムを開催し、広く森林文化を紹介する

ことで、森林を守り育てる意識の醸成を図った。(10月31日、只見町、参加者120名)。

・森林の未来を考える懇談会運営事業(事業費:621千円)

森林の未来を考える懇談会を5回開催した。

第1回懇談会(6月8日)

平成20年度事業実績、平成21年度事業概要の報告

森林環境税の在り方の検討(県民アンケート、タウンミーティング実施方法)

第2回懇談会(10月19日)

事業施工地の調査(現地調査)、タウンミーティングの結果報告

第3回懇談会(11月30日)

県民アンケート調査の結果報告、平成22年度新規事業概要の協議

第4回懇談会(12月24日)

森林環境税の在り方に係る市町村等意見の報告

平成21年度森林環境交付金事業(地域提案重点枠)の審査

第5回懇談会(3月26日)

平成21年度事業実績見込み、平成22年度事業概要の報告

・森林環境基金事業に対する県民の声を聞く事業(事業費:1,000千円)

①県民アンケート調査

期間:4月23日~8月31日

対象:県内に所在する企業及び県内に居住する20歳以上の男女個人

方法:県、市町村及び教育関係機関においてあらゆる機会(窓口・イベント・会議・回覧等)を捉えて実施

回答:総回収数=11,043件

総有効回収数=10,991件、無効数=52件

①企業調査有効回収数=134件、無効数=6件

②一般調査有効回収数=10,857件、無効数=46件

②タウンミーティング(参加者415名、平均:59名/方部)

県北:89名(7/30)、県中:66名(8/4)、県南:34名(8/3)、会津:72名(8/10)

南会津:40名(8/12)、相双:46名(7/27)、いわき:68名(7/24)

○実績累計見込み(H18~21)

- ・森林環境フォーラム 参加者200名
- ・ふくしま森林文化フォーラム 参加者520名
- ・メディアツアー 2回
- ・水源地域の森林整備交流会 21回開催、延べ参加者1,014名
- ・森林の未来を考える懇談会 19回

VII 市町村が行う森林づくりの推進

15 森林環境交付金事業

事業概要

県民一人一人が参画する新たな森林づくりを効果的に進めるため、市町村が独自性を発揮して創意工夫を凝らした事業を展開することができるよう、森林環境基金の一部を交付した。

・森林環境基本枠(事業費:77,734千円)

全ての市町村が一定の取り組みを継続的に実施

対象分野:①県民参画の推進、②森林の適正管理推進、③森林環境学習の推進

・地域提案重点枠(事業費:149,796千円)

市町村の創意工夫による優れた提案事業

対象分野:①森林整備の推進、②県産間伐材の利活用推進、

③木質バイオマスの利活用推進、④その他

○H21実績見込み

- ・森林環境基本枠

59市町村、77,558千円（いわき市6,781千円～湯川村537千円、平均:1,315千円／市町村）
森林環境学習実施校：小学校295校、中学校94校、計389校。（全774校の50%）

・地域提案重点枠

要望：45市町村、93件、214,912千円

採択：45市町村、89件、167,987千円

実績見込み：44市町村、87件、148,969千円

- ①森林整備の推進（29市町村、47件、104,556千円）
- ②県産間伐材の利活用推進（24市町村、29件、26,116千円）
- ③木質バイオマスの利活用推進（8市町村、8件、11,521千円）
- ④その他（2市町、3件、6,776千円）

○実績累計見込み（H18～21）

・森林環境基本枠

交付金額：314,098千円

森林環境学習実施校：小学校385校、中学校125校、計510校。（全774校の66%）

・地域提案重点枠

交付金額：567,609千円（56市町村、312件）

- ①森林整備の推進（42市町村、159件、795.35ha）
- ②県産間伐材の利活用推進（39市町村、105件）
- ③木質バイオマスの利活用推進（24市町村、37件、ペレットストーブ設置台数：142台）
- ④その他（6市町村、11件）